１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0391100096		
法人名	株式会社ブルーム		
事業所名	グループホームさくら（ももいろ）		
所在地	岩手県釜石市甲子町5-2-4		
自己評価作成日	平成28年12月6日	評価結果市町村受理日	平成29年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0391100096-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通３丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年1月12日（木）

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1．地域との関わりを大切にし、家族と同じ用に安心して過ごせる場を提供している　2．医療機関との連携をとり、家族との連絡を欠かさないようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域との関わりを大切にした理念の実践に努めた支援が行われている。地域の盆踊りや運動会・日帰り旅行への参加や、バス停の掃除などに積極的に取り組んでいることで、ホームで行われる夕涼み会に、地域の方々30名くらいの参加があったり、防災訓練では多い時で10名、昨年は4名の協力があった。災害時の地域協定に基づき、事前に説明会が行われている。また、職員の年齢層のバランスもよく、若い職員が資格習得に取り組んでいる。利用者主体となった暖かな雰囲気のホームとなっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内に掲示しており、職員が見れるようになっている。	理念は、開設時にリーダー的な職員で話し合い作られた。事務所に掲示され、理念の実践として、地域交流が積極的に支援されている。また、訪問診療の利用等により、医療連携が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事（盆踊り、運動会、ミニ旅行、清掃活動など）に参加している。地域の方々は、当事業所の夕涼み会や消防訓練などに参加してくださり、地元の婦人部の方にはボランティアで草取りをして頂いている。	町内会に加入し、地域行事に利用者・職員ともに参加している。地元で行われている運動会の参加賞が野菜や米であるのも素朴な土地柄と思われる。利用者の方々が、自然な形で受け入れられている。また、納涼会の前に婦人部より15名の草取りのボランティアがあり、そのお返しとしてバス停の掃除をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会行事のひとつである研修会に参加し、発表の場を来年２月に予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事故・ヒヤリハット報告、防災訓練、行事等について話し合い、意見をもらっている。認知症の種類についてを会議のテーマに盛り込んだり、運営推進委員が敬老会や夕涼み会などの行事や、利用者との食事会に参加したりしている。	運営推進委員と利用者との食事会では、薄味であるが一品だけしっかりした味付けで、全体のバランスが取れているとの感想をいただいた。防災訓練や事故報告として、深爪による出血などの報告を行い、感じたことや意見を話していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加している包括支援センターの職員と情報交換を行っている。権利擁護担当者が毎月来所し、本人と面談を行っている。	包括支援センターの職員より、市で行われる研修の情報を得ている。また、権利擁護担当者が毎月来所している。顔の見える関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を実施し、身体拘束について学んでいる。身体拘束をしないケアに努めており、現在身体拘束はしていない。	社内全体で、毎月2回事例検討会を行っている。身体拘束委員会により、日常生活の中でどれが身体拘束に当たるか話し合っている。また、職員間でお互いに注意出来る関係となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内出血、傷などは随時ご家族に報告し、毎月の研修会の時などに事故・ヒヤリハット報告で職員全体へ報告している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、制度について学んでいる。入居者の一部は日常生活自立支援事業を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員が契約時に読みあわせを行い、説明を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望を受けた場合は、職員間で話し合いを行う。ご家族代表が運営推進委員のメンバーである。会議の場や、研修会でも報告し合っている。	ご家族から、「外に出る機会を多くしてほしい。」との要望があり、話し合いを持ち美容院に出かける機会を設ける等、その時々で検討し対応している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、月に2回の研修会、事例検討会の後にミーティングを行っており、話す機会がある。管理者が社内の運営会議に参加し、発言できる機会がある。年1回、職員との個人面談があり、代表者と職員が直接話せる機会がある。	早番の時間帯の見直しにより、夜勤者の休憩時間の確保が出来るよう見直しが行われている。また、代表者と職員の個人面談が行われ、意見や提案が直接話せる機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、毎月全員のタイムカードの内容を確認。必要時、職員との面談や相談を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、社内研修会と事例検討会を実施。外部の研修にも参加し、研修会の時に伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	改めての交流はまだ行われていないが、外部研修の時の意見交換が出来る時がある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人がうまく表現出来ない時は、前任の介護支援専門員やご家族に尋ねながら、本人の意向を汲取れるよう理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の声に耳を傾け、要望や意見を遠慮なく話して頂き、良い関係を築いていきたいという当方の気持ちを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	求められる支援を見極め、必要な物品を揃えるなどして、スタッフに周知し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に歌を歌ったり、能力に応じて家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて、都度家族と連絡を取り合い、本人の状況を報告したり、電話を取り次ぎ、家族との会話が出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの友人や知人が面会に来たり、馴染みの美容院へ行かれる方もいる。毎回訪問してくれる床屋さんもいる。	近隣から入居されている方は、友達が面会に来たり夕涼み会にも来られている。以前から通っていた美容院に送っていき、終わったら電話をいただき迎えに行っている。ご家族対応で買い物に出かけたり、自宅への外泊もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状況を理解し、対応に気を配っている。衝突が避けられない時もあるが、職員が間に入って対応し、孤立をしないように心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の利用料の支払いで来所された時に、近況を伺い、必要時には相談してくださるよう声掛けを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で意向を伝えることが難しい方に対しては、普段の行動や表情などの変化を観察して、希望に沿えるように検討している。	利用者の表情やうなずきにより、意向を伝えることが困難な方の希望に添えるよう対応している。また、入浴や夜勤時間帯で、職員が利用者の話をよく聞き、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣を理解しながら、本人の気持ちに添えるよう支援している。ご家族とお会いした時に、生活歴の聞き取りなどを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化を把握し、状況に合わせての支援、見守りを行い、職員間での申し送りを行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の研修会、事例検討会の後や、必要時事業所内でカンファレンスを行い、職員間で話し合っている。ご家族より介護の意向などを聞き取り、計画に盛り込んでいる。	介護計画は、カンファレンスの際に皆で話し合い、モニタリングはケアマネジャーがまとめている。面会時に家族より意向を聞き取り、計画に盛り込んでいる。身体状況の変化等について、介護職員よりその都度報告があり検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入している。記録の他に必要な事は申し送りで話し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、可能な限り柔軟に対応するよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大正琴のボランティアが定期的に来所している。町内会に加入し、町内会の活動に参加している（運動会、ミニ温泉旅行、盆踊り、町内会清掃など）。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の同意を得て、定期的な訪問診療（必要時、緊急時の往診もあり）を受けている。入居前からのかかりつけ医への定期的な通院を継続されている方もおり、必要時に、専門医への通院も行っている。	本人や家族の同意を得て、訪問診療医を活用している。訪問診療を利用している利用者は15名、以前からのかかりつけ医を利用している利用者は3名で、そのうち家族対応は1名、他の2名は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の看護師に、必要時相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院へ情報提供を行い、家族が遠方にいる場合はこまめに情報を伝えている。退院時には病院から情報収集を行い、退院後の生活がスムーズにいくように努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医との話し合いの場を設定し、職員も参加。本人、家族の希望に合わせて対応している。	体調の変化のあった時に、家族、主治医、職員で話し合いを持っている。	その時々で意向は変わることも考えられるが、利用者の終末期の意向は、本人が元気な時から行うことが望ましいと思われる。また、入居時に出来る事、出来ない事をご家族に伝えることで、利用者や家族がより安心できるよう取り組みが行われることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務のため参加出来なかった職員もいたが、ほとんどの職員が救急救命の受講を行っている。容態が変化した場合は、主治医や管理者に連絡が取れる体制にしている。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署、消防団、地域住民と共同しての防災訓練を実施。町内会と、災害時の地域協定を締結。火災発生時には、自動的に町内会役員に緊急通報が入る仕組みになっている。	夜7時に避難訓練を行い、その反省から外灯を設置している。災害時の地域協定を締結し、事前に避難訓練の説明会を持ち、昨年は地域から4名の協力があった。階段を昇降できる車椅子を利用した避難訓練が行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修を毎年実施している。日々の業務の中でも、お互いに注意しあうよう努めている。	利用者の個々に合わせた声掛けに努めている。また、ズボンを汚してしまう等何かしら失敗があった時には、他の利用者に気付かれないよう配慮し、ご本人が安心できる声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話で、本人の希望を汲み取っている（家族や知人との外出、外食、買い物など）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食べたいお菓子や果物を購入している。夜間にテレビを好きな時間まで見ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を購入したり、選んで着ている。化粧も自由に行って頂いている。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が手作りし、その人に合った食事形態で提供している。楽しみとして、外食を行っている（年1回）。食後の食器洗いや片付けを一緒に行っている。	献立は1、2階別々で、調査時、1階は和食、2階は洋食のメニューだった。道の駅にラーメンを食べに行く予定がある。ホルモンが食べたいと希望があり、食べるのが大変ではないかと心配もあったが、利用者は喜んで食べていた。茶碗拭きやタオルたたみを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と15時に水分補給、おやつの時間を設けているが、好きな時に水分を摂って頂いている。市の管理栄養士に、献立表について栄養指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、一人で出来ない方に対しては介助にて行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便、排尿のチェックを記入。個々に応じてトイレ誘導を行っている。	リハビリパンツが9名、夜間のみおむつ対応が1名、他の方は布パンツを使用している。日中失禁が少なくなり、軽失禁パットに変更した利用者もいる。利用者は全員トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ、水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の入浴日は決まっているが、状況によって随時入浴出来るようにしている。職員１人での入浴介助が困難な方に対しては、２人の介助で浴槽に入れるように支援している。	1階はバスリフトが設置されており、1名利用している。2階の利用者は、1名が現在利用を検討中となっている。入浴拒否がある時は、次の日に変更するなど柔軟に対応している。同性介助の希望は2名あり、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしないように気を配りながら、自由に休息出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変動についての申し送りは必ず行っている。未投薬、誤薬防止の二重チェックを行っており、残薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて食器拭きなどの家事を行って頂き、役割を持つ喜びを持てるよう支援している。嗜好品は、希望があった場合その都度購入代行し、買い物の同行も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と一緒に外出、外食を楽しんでいる。同社のデイサービスのイベントに参加（民謡クラブなど）。天気が良い日には、近隣の散歩に出掛けている。	2ヵ月に1回、社内のデイサービスのイベントに参加している。暖かい時は、散歩や花見・釜石観音等に出かけている。また、1～3ヶ月に1回、洋服やおやつを買いに出かけている利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など、必要時にはいつでも使えるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときは、その都度対応している。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や光の調整をしている。事務室、台所はカウンターが低く、職員と利用者が会話しやすい。行事や季節に合わせた飾り物をして楽しんでいる（お雛様、七夕飾り、クリスマスツリー、みずき団子など）	利用者の書初めや塗り絵が展示してあり、水木団子をホールに飾っていたが、硬くなった団子を食べてしまう心配もあり、ホールから階段の方に移している。お雛様や七夕・クリスマスなど、季節に合った飾りつけを行っている。また、ソファーが設置してあり、寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見る方がいたり、ホールでぬりえをしたり談笑しながらくつろいでいる。一人になりたい時は、居室で自由に休まれている。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス、エアコンはグループホームで設備。その他は、各々ご自分の物を持参し、思い思いに配置している（写真、本、テレビ、置物など）	テレビを持ち込みしている方は1階に3名、2階に5名いる。他に冷蔵庫や椅子・仏壇など持ち込まれている。孫の写真や夫の写真が飾られ、夜間遅くまで居室でテレビを見て過ごされる利用者もおり、利用者個々にその人らしい時間を過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どの居室からも比較的トイレが近い。廊下に手すりがついている。事務所や台所がオープンになっており、利用者の様子が見えるようになっている。		